

患者医療図書サービス運営の問題点と展望

マニュアル作成の経験から

有田由美子(新潟県立がんセンター新潟病院)

吉富まち子(竹田総合病院)

篠原寿美江(川崎市立川崎病院)

大沼由紀子(株式会社 日立製作所 日立総合病院)

- 背景：**我々は病院図書室研究会にてグループ研究をおこない、2001年より2年間にわたり「病院における医療情報提供の現状と図書室担当者かかわり方」を研究してきた。その研究の経過は昨年の京都大会で篠原が発表したとおりである。我々は研究の成果をもとに、情報を求めてくる患者・家族に対して図書室担当者がどのように対応し、情報を提供するかを主体としたマニュアルを作成することになった。
- 経過：**マニュアルは、病院図書室研究会30周年記念事業の一環として患者図書マニュアル作成委員会を立ち上げ、「患者医療図書サービスマニュアル - 医療情報を中心とした患者図書室」という書名で2004年3月に発行された。研究を開始しマニュアルを作成している間にも、国内では次々に患者医療図書サービスを開始する病院が増加している。
- 目的：**患者自らが病気を知り、診療を選択するための医療情報を得ることができるこのサービスの増加は、嬉しい限りである。しかし、サービスを単に本や資料を並べるだけで終了とせず、研究調査で得た実施者の声やサービスの形態ごとの問題点、長所を踏まえ、より良いサービスへ成長させていく必要がある。病院図書室研究会としての新たな支援を探りたい。